

ことは必ずしも現在の綴り方が好きなるためにはあらで、單に我國がローマ字を必要とする時代に近づきつゝあるがためにはあらざるか。

願ふに今日の日本の現狀に最も適切なることはローマ字採用の主張よりも、そは早晩來るべき豫定の事實として、之に移るに必要な横書を主張することなりと信ず。綴り方の如きは之を後世の人に托して可なり。たゞこの當然來るべき氣運を看取せざるが如き人の爲めに詭辯の謗を招く虞あるに關らず論ずること以上の如し。

英 文 警 句 (其の一)

“When you can measure what you are speaking about, and express it in numbers, you know something about it; but when you cannot measure it, and when you cannot express it in numbers, your knowledge is of a meagre and unsatisfactory kind” (Lord Kelvin)

“The student of mathematics is accustomed to a chain of deduction where each link hangs upon the preceding; and thus he learns continuity of attention and coherency of thought (Dr. Whewell).

某女生徒保證人の家に来りて『どうも近頃は數學の宿題が一度に20題も出る、又試験のときに先生は一度もや

つたことのない問題を出されるから困る』と成る程この人は公式に數を代入するのみを數學の練習と心得たるかねぼけて讀んでも解るものは新聞の三面記事ばかり、さういふ人は數學をやつても計算をする活きた器械に過ぎないであらう。女學校は女工を養成する所にあらざ、自分で考へて問題を解くやうな頭の練習を積む爲めではないか。又某女學校の生徒恐る恐る進み出て、受持の教諭に伺ふやう『先生幾何といふものは何のために習ひするもので御座いませうか』と。

これ實によくこの年頃の女性の心情を穿ち得て妙なりといふべし。

讀者よ諸君は Kelvin 卿の語を聽かれたるか。

諸君が自ら述べらるる事柄について何か測定をしてその結果を數で表はし得らるゝならば——(例へば何倍重いか何パーセントであるとかいふやうに)諸君の智識が確實である——と謂へる; 然るに若し數で表はして話しをすることが出來ないやうな事柄はそれに對する諸君の智識が尙不十分な點があるに違ひなとい。

數學物理化學を Exact Science と呼ぶことある理由又凡ての科學が此處に根底を置かねばならぬ理由が解るでせう。